



## \* \* がんの痛みの表現(性状)について \* \*

がんの患者さんが体験する痛みは、がんの進行とともに様々な原因から複雑になり、痛みの評価が難しくなります。日頃患者さんと接する中で、「どのような痛みがありますか？」と質問した際、表現することが難しいと答えが返ってこないことがあります。その場合、「ズキズキしますか？ピリピリしますか？」など例をあげて質問すると、患者さんが感じている痛みを表現してもらえ、病態のアセスメントに繋がった経験があります。医療者側が例をあげて質問することで人それぞれ感じ方が異なる痛みを表現しやすくなり、その表現(性状)を参考にして痛みの病態(体性痛・内臓痛・神経障害性疼痛)の推測や、薬剤(鎮痛薬、医療用麻薬、鎮痛補助薬など)の選択に役立てることが出来ます。

患者さんの痛みの表現(性状)をスムーズに捉え、さらに病態のアセスメントにつながるよう参考にしてください。

### 痛みの表現(性状)

### 痛みの病態・特徴

### 治療

鋭い  
ヒリヒリ  
ズキズキ  
しみるような  
脈打つような(ズキンズキン)  
うずくような

#### 体性痛

皮膚や骨、筋肉結合組織など体性組織がダメージを受けて起こる痛み  
  
皮膚・骨転移など限局的・鋭い痛み  
動かすと痛みや圧痛がある

鎮痛剤が有効  
  
鎮痛薬以外の治療(放射線療法など)が必要になることがある

鈍い  
圧迫されたような  
重い(ズーン)  
ギューツ

#### 内臓痛

内臓が何らかのダメージを受けて起こる痛み  
  
痛みは広範・鈍く痛む  
悪心・嘔吐や発汗を伴うことがある

医療用麻薬が有効

電気が走るような(ピリピリ)  
ジンジン  
焼けるような  
正座をした後の痺れるような  
針で刺すような  
締め付けられるような

#### 神経障害性疼痛

神経の支配領域に沿った痛み  
  
痛みの性状が特徴的  
感覚障害など伴う

鎮痛薬に加えて抗うつ薬や抗けいれん薬などの鎮痛補助薬が必要になる場合がある

\* \* 痛みの表現(性状)と病態は必ずしも一致しないこともありますが、一つの目安となります。 \* \*